

未来への かけ橋

発行 2008年3月3日

岡田 理絵

〒772-0032

鳴門市大津町吉永226-2

TEL 088-685-3537

FAX 088-683-0395

岡田りえの 県政報告 No.1



一年を振り返って ～緊張と感動の日々～

徳島県議会議員 おかだ りえ 岡田 理絵

自然のすべてのものが生命感あふれだす季節になりました。皆さまにおかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

昨年、鳴門市民の皆さまをはじめ多くの方々にご支援をいただき、徳島県議会議員として初当選させていただきました。心より厚くお礼申し上げます。

この一年を振り返りますと、「人と人・市民と県政・人と自然をつなぐ」をモットーに、県議として様々なことに取り組んで参りました。これもひとえに、皆さまのお力添えのおかげと深く感謝いたしております。本当にありがとうございます。

徳島県議会は年4回6・9・11・2月の定例会と委員会があります。11月定例会では初めて一般質問をさせていただきました。今、私は42歳。人生80年と言われるちょうど真ん中の世代だから見えることを、県民の目線で、女性の視点で質問いたしました。また、県内外の様々な所へ視察に行つて参りましたが、現地の皆さんが力を合わせ、その地の魅力を最大限に発揮しようと工夫されている取り組みに触れることができました。私にとってまさに、学ぶことの多い日々でございました。この一年、私が、見て・聞いて・感じ・考えたことをご報告させていただきます。そして、この体験をいかし、次の一年は、皆さまとともに、活動する一年へとつなげて参りたいと、決意も新たに全力でがんばる所存でございます。今後とも皆様の変らぬご支援・ご指導をよろしくお願い申し上げます。

11月定例徳島県議会 一般質問より

(平成19年11月30日)



議会棟1階ロビー



問1 地域農業や漁業と密接に関わった「食育」の全県下展開について

Q

(岡田)

鳴門市内の小学校では、地域の農業・漁業の方と連携し子どもたちが実際に作業を体験する機会が増えている。収穫されたばかりの新鮮な食べ物には、食材本来の味があり、「採れたてはこんなにおいしい！」という感動を与え、旬の食材も知る事ができる。「食」は生きる源であり、季節感・自然の恵みに対する感謝の気持ちなど、「豊かな心」や「人間性」を育む基礎となる。子どもの時から「食育」をしっかりと実践することで、地域農産物や水産物に愛着が生まれるとともに、食の安心・安全への意識も高まり、徳島県の「未来の地域農業・漁業の担い手」としての将来の明るい展望も見えてくるのではないかと。

A

(飯泉知事)

子どもの時からの食育は、生涯にわたる健全な食生活の基礎であり、学校においては栄養教諭などが中心となり学校給食における地産地消を進めている。また、地域の生産者と連携をし、収穫に至るまでの栽培管理や調理、加工、給食への利用、販売活動など、様々な体験を通じた学習活動を県下各地で実施している。家庭での食育も広がりを見せ、この成果をさらに高めるため、教育機関や農林水産関係団体などとの連携を一層強化しながら、生産者と消費者の距離が近いという本県の特性を最大限に生かした食育を積極的に推進していきたい。

問2 (1)「野菜ソムリエ」の方と連携を図ったとくしまブランドのPR戦略展開について

Q

(岡田)

最近、若い女性の関心が集まっている資格に「野菜ソムリエ」という、民間の資格がある。県内においても「野菜ソムリエ」の団体が設立された。例えば「新鮮なっ!とくしま号」に「野菜ソムリエ」の方が同乗し、情報発信力のある若い女性の世代などにPRしていただければ新たな層の開拓ができると考える。



A

(農林水産部長)

野菜摂取量が少ないと言われていた若い女性世代等において、その重要性や料理方法を伝え、生涯にわたる愛好者となっていただくことは大変重要である。野菜ソムリエの方々でベジフルコミュニティ徳島が設立されたが、その協力を得て若い女性など青年層に本県のおいしい野菜や果物の魅力を伝える活動や食育の推進などブランド浸透の効果を大いに高めたい。今後、野菜ソムリエの方々と協働活動など工夫を加え、信頼され購入していただく「とくしまブランド」の確立に向け、全力で取り組んで参りたい。

